

さいたま市MICE誘致戦略 概要版

1. 戦略策定の背景と目的

背景と目的

- 本市では首都圏広域地方計画においても、東日本の玄関口として、多種多様な人・モノ・情報が集結する対流拠点としての役割が位置づけられ、MICE分野でも発展が期待される。
- 一方、MICEの開催・誘致については、近年、世界各国、また国内の各都市において、取組が強化されており、厳しい競争環境にある。
- 本市におけるMICE開催件数を増加させ、地域経済の活性化、都市プレゼンスの向上につなげるには効率的・効果的な誘致活動が必要。
- MICE分野における本市の目指すべき将来像の実現に向け、取組の方向性を示す。

計画期間

2018年度から2020年度までの3年間

(2021年度以降については次期総合振興計画の策定に合わせて見直しを実施)

2. 現状と課題

強みと弱みの整理

- MICEの開催実績や関連施設の状況、本市を取り巻く環境などから、MICE誘致に関する強みと弱みを整理。

■強み

- 鉄道・道路網による交通アクセスに優れている(M, I, C, E)
- 首都圏広域地方計画における対流拠点として位置づけ(M, I, C, E)
- 東日本連携の取組として、(仮称)東日本連携支援センターの開設予定、及び広域周遊ルートの策定が進められている(M, E)
- 「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の活用をはじめ、環境に対する先駆的な取組を実施している(C, E)
- 1人あたりの消費額が高い医学系会議の開催割合が大きい(C)
- 学会誘致のキーパーソンを有する大学、医療施設、研究所等が多数存在している(C)
- 盆栽、人形、鉄道、自転車といった独自のテーマ、コンテンツを有している(E)
- さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002があり、スポーツ、コンサートといった集客効果の高いイベント開催の基盤がある(E)

■弱み

- 主要MICE施設の稼働率が高く、新規に誘致する催事を受け入れにくい(C, E)
- ホテルの稼働率が年間を通して高い状況であり、特に大規模MICE開催時には市内での予約が難しい状況にある(M, I, C, E)
- 参加者や関係者の宿泊需要を生みにくい単日開催のコンベンションが多い(C)
- 展示会、見本市等の開催に適した平土間型施設が限定的(E)
- アフターコンベンションやユニークベニューとなり得る観光資源が限られている(C)
- 他都市と比べて誘致担当者の人員が少なく、財政支援制度の助成金額も低い(C)

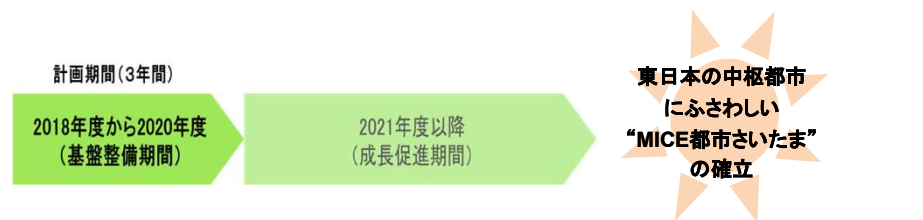
3. 取組の方向性

目指すべき将来像

- 本市の強みを最大限に生かし、他の施策と連動しながら、本市のプレゼンスの向上や、広域的な枠組の中で本市が期待されている役割の強化につながる取組を展開することにより、「**東日本の中核都市にふさわしい“MICE都市さいたま”の確立**」を目指す。

本計画期間における取組の方向性

- 目指すべき将来像の実現のためには、まず、長期的取組の土台となる基盤整備から始めることが必要。
- 今後取り組むべき段階的なステップを見据え、本戦略の計画期間(2018年度～2020年度の3年間)は、目標達成に向けた基盤を整備する期間と位置付ける。



重点ターゲットの設定

確実なMICE開催件数の増加を図るとともに、市が展開する施策と相乗効果があるMICEの開催・誘致に注力。

ソフト施策の方向性

既存のMICE施設や観光資源を最大限に活用したMICE誘致を行い新たなキーパーソンやステークホルダーの発掘、誘致体制の強化を図る。

ハード施策の方向性

既存のMICE施設との機能分担を考慮しながら、民間事業者のノウハウを活用しつつ、重点ターゲットを見据えたMICE施設の誘致活動等を展開。また、宿泊特化型ホテルの誘致を重点的に行う。

重点ターゲット

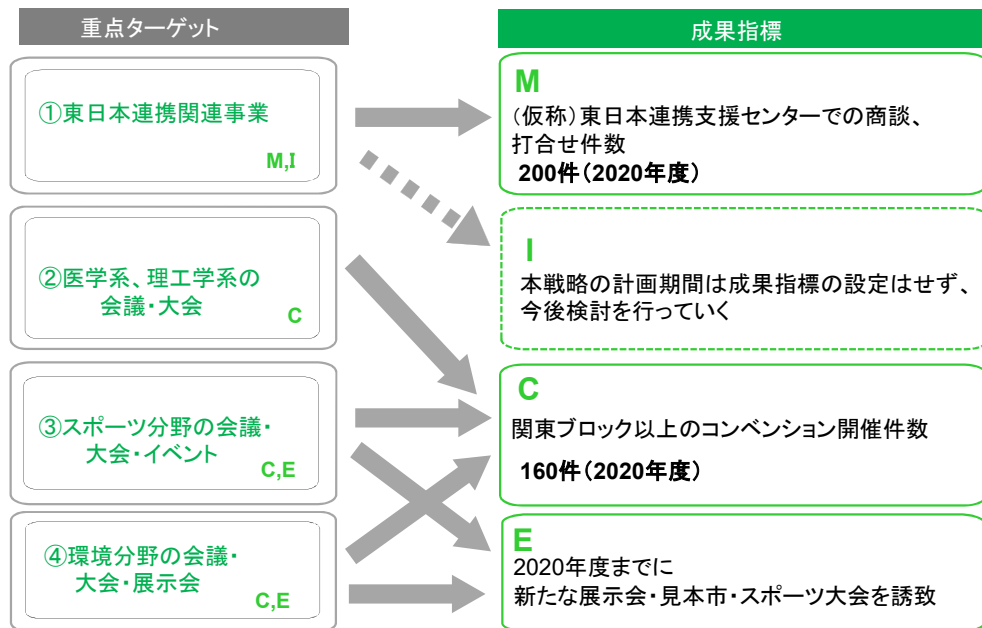
- 本戦略の計画期間において積極的に誘致を進めるべき重点ターゲットを設定。

重点ターゲット①	東日本連携関連事業(M, I)
重点ターゲット②	医学系、理工学系の会議・大会(C)
重点ターゲット③	スポーツ分野の会議・大会・イベント(C, E)
重点ターゲット④	環境分野の会議・大会・展示会(C, E)

さいたま市MICE誘致戦略 概要版

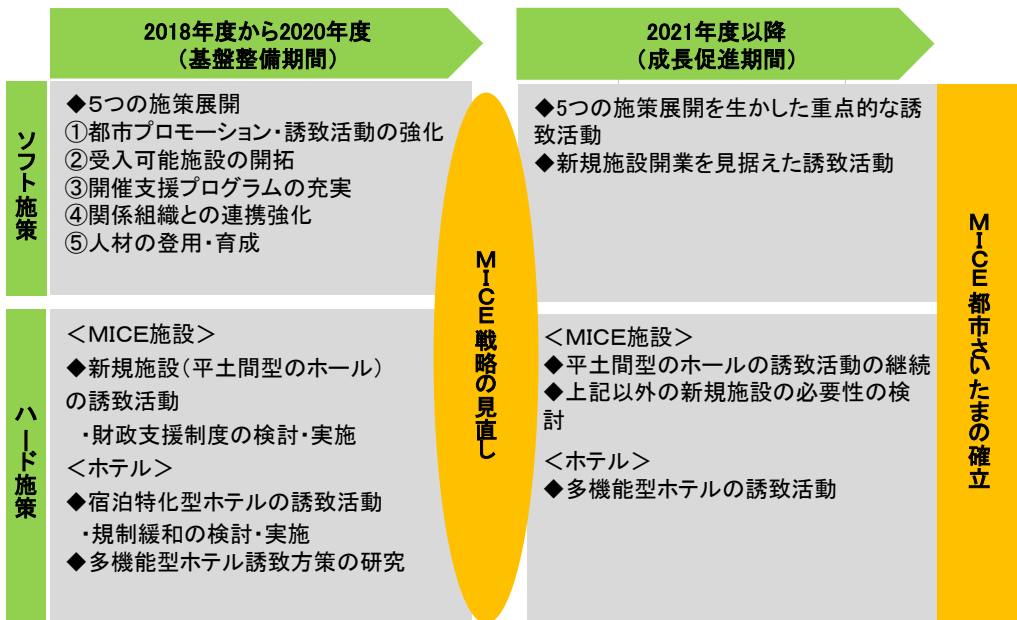
成果指標

- 本戦略の計画期間における成果指標は以下のとおりである。
なお、成果指標は次期総合振興計画の策定にあわせて見直しを行う。



4. 施策展開

- 目標達成に向け、戦略期間を通してソフト・ハード両面から施策を展開。



ソフト施策

①都市プロモーション・誘致活動の強化

- 重点ターゲットの誘致にあたってのキーパーソン、ステークホルダーの発掘、リレーションの構築
- 誘致ネットワークの強化、開催実績のある主催者等の再整理及びアプローチ方法の再検討 等

②受入可能施設の開拓

- 市有施設の事前優先予約による有効活用
- 本市の観光資源等の再整理による新たなユニークベニューの開拓 等

③開催支援プログラムの充実

- コンベンション開催助成金制度の拡充
- コンベンション主催者に対する助成金制度等の効果的な周知 等

④関係組織との連携強化

- 市内及び近隣にキャンパスを構える大学との連携強化
- スポーツ関係団体との連携強化
- 東日本連携都市との連携強化 等

⑤人材の登用・育成

- MICEアンバサダーをはじめとする、地域の貴重な人材を生かした誘致体制の強化
- (公社)さいたま観光国際協会のMICE担当人員体制の強化 等

ハード施策

MICE施設

- 既存のMICE施設との規模や機能分担、展示会・見本市やスポーツ・コンサートの開催を見据えて**平土間型のホール**の誘致活動を行う。
- 市内に類似規模施設が無く、展示会を併せた医学系学会などの開催やバスケットボール、バレーボール等のスポーツ、コンサートの開催を考慮すると**2,000㎡～5,000㎡規模**を想定。
- 民間事業者主導の施設整備を想定し、財政支援制度を検討・実施。

ホテル

- 宿泊特化型ホテル**の誘致を重点的に行い、市内の宿泊機能の充実を図る。
- ホテルとの相互利用による効果の高いバンケットは、ホテルとの事業を分離したバンケット整備も想定できることから、ホテルの付帯的な機能として誘致を検討。
- バンケットの規模は、既存施設との機能分担を考慮し、ミーティングや小規模コンベンションの開催が可能である500㎡程度を想定。
- 宿泊事業者の進出を促すため、規制緩和等の検討・実施
- 国際会議等でのVIP受入れが可能なスイートルームやバンケット等を有する多機能型ホテルの誘致方策を研究。